



島根県

高橋翔太朗建築設計事務所
高橋 翔太朗

【作品名】
忌部の離れ

設 計	高橋翔太朗建築設計事務所
施 工	株式会社 たみつ建匠舎
竣 工 日	2021年9月4日



建物概要

建設地	島根県松江市	延床面積	61.63m ²
敷地面積	1,119.19m ²	構造・規模	木造平屋建

設備面の特記

厨 房 機 器	ガスコンロ
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン



①真っ白な空間であるリビングとキッチンの間に、大黒柱として節木の荒々しさのあるヒノキの木を配置。この節木があることで、室内に居ても自然のチカラを感じることができる。

②3人の子どもの成長記念として購入した絵などを飾りたいとの要望から、絵が映えるように白を基調とした空間とした。

③天井高5.8mの吹き抜けには、トップライトを設けない計画とし屋根裏01の壁に大きな開口を確保。暖かい空気を外に放出する。



設計コンセプト

標高199mの高台にあり、360度自然に囲まれた贅沢な敷地からは、大山や宍道湖などを眺めることができる。普段から自然と近い距離で生活していることから、自然と一定の距離感を取るとともに、日常の視覚では感じることのできない景観を取り取り、新たな視点で自然を感じる建築を考えた。

もともと寄棟の納屋が建っていた場所へ建て替える計画であったため、建物形状も細長い敷地を活かし、土地との親和性のある寄棟を採用。積雪量も考慮し、急勾配の屋根とすることで、内部空間にスペースをつくる計画とした。平家のようなボリューム感で、屋根の下は全ての空間が連続し窓を通して外部へ誘導される。建物の中央には、節木の荒々しさのあるヒノキの大黒柱を配置し、内部にいても自然の力を感じることができる。

リビングや部屋01、屋根裏01などは、帰省した子どもたちが使えるスペースとし、キッチンや主寝室、ウォークインクローゼットなどのプライベートな空間を柱一本で緩やかに空間を分ける計画とした。南東側の屋根の寄棟妻側は開口部とし、空気の通り抜けや自然環境を取り取り、空や木々が迫ってくるような計画としている。

子どもの頃は忌部の母屋に暮らしていた妻が、忌部の地に戻り、贅沢な自然に囲まれたこの土地で、改めて帰ってよかったと思える離れであり続けたいと思う。

審査委員講評

大自然に囲まれながら茅葺きを思わせる屋根が印象的な母屋に付属する離れの計画。外観の姿そのままに内部では伸びやかな空間が広がり、高齢を迎える方や家族間での多様な住まい方が今後可能な住宅です。小さなながらも立体的な設計により敷地全体を含め一体的で豊かな住空間と、懐かしくも新しい建築の佇まいを実現しています。